

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
龍馬デザイン・ビューティ専門学校		平成4年2月17日		中西 康廣		〒780-0935 (住所) 高知県高知市旭町2-22-58 (電話) 088-875-0099			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人龍馬学園		平成1年3月23日		佐竹 新市		〒780-0056 (住所) 高知県高知市北本町1-12-6 (電話) 088-825-0077			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
工業	工業関係専門課程		建築インテリア学科		平成 7(1995)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的	建築設計や施工管理者として活躍できる技能や専門知識を身につける。建築に関する法規や一般構造の理解、家具デザインの基礎やデザイナーの資質などについて総合的に学ぶ。単に建築意匠や空間の装飾にとどまらず、総合的な演出やライフスタイルそのものを提案できる設計力、施工現場にて作り上げていく管理能力などを兼ね備えた人材の育成を目指す。								
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格 等)	インテリア設計士2級・建築CAD検定3級等								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		2,170 単位時間	434 単位時間	496 単位時間	1,240 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
		単位		単位	単位	単位	単位	単位	
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率			
80 人	47 人		0 人		0 %	3 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		24 人						
	■就職希望者数(D)		10 人						
	■就職者数(E)		10 人						
	■地元就職者数(F)		7 人						
	■就職率(E/D)		100 %						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		70 %						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		42 %						
	■進学者数		13 人						
	■その他								
	妊娠による就職離脱辞退:1名								
(令和 6 年度卒業者に 関する令和6年5月1日時点の情報)									
■主な就職先、業界等									
(令和6年度卒業生)									
建設会社、工務店 等									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有る場合、例えば以下について任意記載				無				
評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL					
当該学科のホームページURL	https://www.ryoma.ac.jp/rdb/architect-interior/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)								
	総授業時数				2,170 単位時間				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				62 単位時間					
うち企業等と連携した演習の授業時数				0 単位時間					
うち必修授業時数				62 単位時間					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				62 単位時間					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				0 単位時間					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				0 単位時間					
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(B:単位数による算定)								
	総単位数				0 単位				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				単位					
うち企業等と連携した演習の単位数				単位					
うち必修単位数				単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数				単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				1 人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				0 人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人				
	計				1 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				1 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本科では、建築やインテリアに関する幅広い知識と技術を持った人材を養成することを教育目的としている。建築関係団体及び建設業の役職者等を教育課程編成委員会委員に選任し、建築・インテリア業界の専門性の動向、新たな技術動向に関する知識・技術について、関係者からの意見等を十分に反映し、より実践的な授業科目、授業の内容・方法の改善を図っていく方針である。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

別添の「龍馬デザイン・ビューティ専門学校組織規定」のとおり、教育課程編成委員会(以下「委員会」という)は、校長直轄の組織として設置しており、カリキュラム改善に対する意見を企業等の役職員及び有識者から聴取し、これを基に校長以下、建築インテリア学科の担当でカリキュラムの改善について検討し、次年度に向け改善を図っていくこととしている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
中西 康廣	校長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年間)	—
大久保 光洋	副校長兼事務局長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年間)	—
石元 優	教務部長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年間)	—
松尾 優子	教員	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年間)	—
北添 幸誠	(公社)高知県建築士会 会員	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年間)	①
今西 由右子	丸岡建築事務所	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年間)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (7月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年7月30日 11:30～12:30

第2回 令和7年2月26日 11:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

意見交換で出た事案の中で、短期的・中期的・長期的に取り組むめそうな内容に精査し、可能なものから実際にカリキュラムに反映させた後、学生の意見もアンケート等で集約し改善を加えて行っている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

最近の技術動向を踏まえ、現場で必要な知識・技術を具体的に身に付けさせるため、関連団体や企業へのヒアリング等を通じて重要項目や課題を抽出し、その結果にもとづいた解決・改善内容を実習や演習内容に反映できるよう関連団体や企業と連携しながら計画を進める。また実習・演習等の実施後には関連団体や企業及び学生からの報告を元に、その効果を検証しながら改善を図る。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

連携先企業等の担当者と学校担当者間で、授業形態やシラバスの確認を行い、また評価項目に関しては、その内容とレベルを協議し確認している。実習・演習等の期間中は、どのような指導を学生が受け、どのように向上したのかを企業等の担当者から適宜、具体的な報告を受けている。また、その実効性について企業側と学校側とで具体的な検討ができるよう体制を敷いている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
モデリング	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	建築模型製作を通して ①建築図面を読む力、②2Dから3Dにする空間的思考力、③模型製作の技術力を習得する。	葛岡龍樹建築事務所

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針		
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記		
学則施行細則の龍馬デザイン・ビューティ専門学校教職員研修規定により、当校が実施する研修は、①新任者研修、②管理職研修、③養成研修に分けて行われており、県内外の各科に関わる業界関係団体や、教育関係団体が主催する研修などに積極的に参加させている。研修等の参加に当たっては、校長又は部門の長が本人のキャリアや適性、意欲等を考慮し、また学校全体の状況等も踏まえ、戦略的に研修を計画している。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	教員連携企業研修	連携企業等: 葛岡龍樹建築事務所
期間:	2025/3/24 ～ 3/25	対象: 学科教員
内容	建築設計事務所に於いて、現在の実務手法の習得や最新の業界動向を知る。	
研修名:	0	連携企業等: 0
期間:	0	対象: 0
内容	0	
研修名:	0	連携企業等: 0
期間:	0	対象: 0
内容	0	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	生成AI(Copilot)の活用方法	連携企業等: 一般社団法人REIONE
期間:	2024/12/25 10時～12時	対象: 龍馬学園教員
内容	生成AIとは何か、どのような使い方なのか、注意する点など	
研修名:	0	連携企業等: 0
期間:	0	対象: 0
内容	0	
研修名:	0	連携企業等: 0
期間:	0	対象: 0
内容	0	

(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: 建設現場見学会		連携企業等: なし
期間: 2024/5/16 13時～16時		対象: 学科学生
内容: 高岡郡佐川町に建築される図書館の構造見学を通して、現代建築の施工技術等を学ぶ。		
研修名: 台湾研修		連携企業等: なし
期間: 2024/12/15 ～ 12/19		対象: 学科学生
内容: 海外の設計事務所ディスカッションのほか、文化・様式に触れグローバルな視点を養い、今後の設計活動の糧とする。		
研修名:	0	連携企業等: 0
期間:	0	対象: 0
内容: 0		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	0	連携企業等: 0
期間:	0	対象: 0
内容: 0		
研修名:	0	連携企業等: 0
期間:	0	対象: 0
内容: 0		
研修名:	0	連携企業等: 0
期間:	0	対象: 0
内容: 0		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

自己点検・評価結果をもとに、学校運営及び各学科に関わる意見を様々な視点から広く聴取し、早期に改善を図るべき事項と中長期に対処すべき事項を区別した上で、当校の教育の質を維持・向上させるために、具体的な学習環境や教育体制の整備計画を立て授業シラバスの見直しや校務分掌で実行していく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	【抜粋(別紙参照)】1. 学生等に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか。(学生便覧等) 2. 教職員に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか。(教職員手帳等) 3. 学外の方に対して教育理念等を明文化し、公表しているか。(HP、パンフレット、募集要項等)
(2)学校運営	【抜粋(別紙参照)】1. 組織機能図があるか。 2. 学校の年間スケジュールはあるか。 3. 分煙・禁煙等に関する規定が文書化・掲示されているか。
(3)教育活動	【抜粋(別紙参照)】1. 育成人材像に向けた修業年限分のカリキュラムが文書化されているか。 2. カリキュラム作成のために複数のメンバーによりカリキュラムの作成が行われているか。(カリキュラム作成委員会等) 3. カリキュラム作成メンバーの中に高校生の現状、社会ニーズを反映させるために複数の内部職員をいれているか。
(4)学修成果	【抜粋(別紙参照)】1. 学生の就職に関する目標を設定したか。 2. 学生の就職に関する目標に対して教職員に共有されているか。 3. 学生の就職活動に関する記録がなされているか。
(5)学生支援	【抜粋(別紙参照)】1. 入学予定者に対し学習指導・支援等は行われているか。 2. 入学者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションは行われているか。 3. 担任による面談が定期的に行われているか。
(6)教育環境	【抜粋(別紙参照)】1. 図書室・図書コーナー等があるか。 2. 学生が利用できる参考図書、関連図書は備えられているか。 3. 就職支援を行う指定された場所があるか。
(7)学生の受入れ募集	【抜粋(別紙参照)】1. 学校案内等には育成人材像が明示されているか。 2. 学校案内等には目指す資格・検定・コンペが明示されているか。 3. 学校案内等には学費・教材費等が明示されているか。
(8)財務	【抜粋(別紙参照)】1. 学校案内等には育成人材像が明示されているか。 2. 学校案内等には目指す資格・検定・コンペが明示されているか。 3. 学校案内等には学費・教材費等が明示されているか。
(9)法令等の遵守	【抜粋(別紙参照)】1. 定期的に防災訓練を実施しているか。 2. 個人情報保護規程が文書化されているか。 3. ハラスメントに関する規定が文書化されているか。
(10)社会貢献・地域貢献	【抜粋(別紙参照)】1. 目標・計画に基づく社会的活動(地域活動、地域貢献、ボランティア活動等)を実施しているか。 2. 地域社会の行政、商工業、教育機関、文化団体等へ加盟をしているか。 3. 上記において定期的な会合に参加しているか。
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

自己点検・評価結果をもとに、学校運営及び各学科に関わる意見を様々な視点から広く聴取し、早期に改善を図るべき事項と中長期に対処すべき事項を区別した上で、当校の教育の質を維持・向上させるために、具体的な学習環境や教育体制の整備計画を立て授業シラバスの見直しや校務分掌で実行していく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
菅井 智恵	保護者	令和5年8月1日～令和7年7月31日(2年)	PTA
元吉 太郎	旭二丁目町内会	令和5年8月1日～令和7年7月31日(2年)	地域住民
山下 智徳	建築生活空間研究企画室 代表 建築関係	令和5年8月1日～令和7年7月31日(2年)	地元企業関係者
高橋 和之	グラフィスデザイン事務所 代表 グラフィックデザイン関係	令和5年8月1日～令和7年7月31日(2年)	卒業生
國澤 裕貴	高知県自動車整備振興会理事	令和5年8月1日～令和7年7月31日(2年)	地元企業関係者
山本 晋爾	株式会社RT 代表取締役社長	令和5年8月1日～令和7年7月31日(2年)	地元企業関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.ryoma.ac.jp/disclosure/>
公表時期: 令和7年7月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等と密接かつ組織的連携体制を確保し、より質の高い教育を学生に提供することを目的として、企業等の学校関係者に対して、学校の教育活動、その他学校運営の状況に関する情報を積極的に提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学園概要、学校紹介、校訓(校長挨拶)
(2)各学科等の教育	学科紹介・概要(目指す仕事・目標資格・年間スケジュール等)
(3)教職員	教員名簿
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、就職指導・就職サポート
(5)様々な教育活動・教育環境	キャンパスライフ、施設・設備
(6)学生の生活支援	龍馬学園奨学金、学園指定・推薦ワンルームマンション
(7)学生納付金・修学支援	入学金・学費、学費サポート(特待生制度・各種奨学金制度)
(8)学校の財務	資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表
(9)学校評価	自己点検評価結果・学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.ryoma.ac.jp/disclosure/>

公表時期: 令和7年7月1日

授業科目等の概要

(工業関係専門課程 建築インテリア学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			設計製図Ⅰ	図面の持つ役割や機能を理解し、設計意図を的確に表現する技能を学ぶ。建築の設計に係わる知識や設計手順を学び、建築設計計画を習得する。	1通	217				○	○		○		
2	○			CAD実習Ⅰ	コンピュータでの設計業務が行えるよう設計支援ソフト(CAD)の基本的操作を習得する。CADソフト使って木造住宅の設計・製図を学ぶ。	1通	124				○	○		○		
3	○			住居学	人間生活の基礎である住まいについてその歴史、現状、暮らしと住まいのあり方、環境等について概説し、住宅計画と設計の基礎知識を学ぶ。	1通	62		○			○			○	
4	○			インテリアコーディネート	インテリア計画からプレゼンテーションまでを含めて立体的にトータルなモノ作りを理解し問題意識を持って、実践的なインテリアプランを作り上げ、演出していく。	1通	93			○		○				○
5	○			モデリング	建築模型制作の意味を理解し、模型を制作しながら建築の構造・仕上げを学ぶ。模型制作に必要な基礎的な知識を学び、各計画別に模型を完成させていく。	1通	62				○	○			○	
6	○			パースペクティブ	遠近法、消点法等を学び平面上に立体感のある空間を表現する方法を学ぶ。平面図、立面図、断面図、展開図等を合成し、立体的な空間に変換する手法を学ぶ。	1通	62				○	○		○		
7	○			福祉住環境学	住居の内外における物理的環境を学び、その中で暮らす人たちが肉体的にも精神的にも健全で快適に満足して住めるような住居を計画できる知識を学ぶ。	1通	62		○			○			○	
8	○			施工実務Ⅰ	施工現場における基礎知識をはじめ、建築空間に合致した材料選定のために特性、品質、形状、寸法などの知識を習得する。	1通	62		○			○	○		○	
9	○			ベーシックデザイン	デザインに必要なツールを駆使する技能を習得し、第三者に伝える能力、表現力を身につける。	1通	62				○	○			○	
10	○			デザイン実習Ⅰ	デザイナー自身や作品の設計意図を研究。また、デザイナーズ住宅やデザイナーズチェアの模型作製を通して、デザインを追及する。	1通	62			○		○		○		○
11	○			デザイン研究	デザイナー自身や作品の設計意図を研究。また、デザイナーズ住宅やデザイナーズチェアの模型作製を通して、デザインを追及する。	1通	62			○		○		○		
12	○			色彩設計	色彩の基礎から学習し、建築インテリアに応用する知識をつける。「適色適所」を、専門分野で駆使できるように、カラースキルを身につける。	1通	62		○			○			○	
13	○			ビジネスPC実習	Word、Excelの基本的操作を学び、実社会で役立つ実務能力を養う。	1通	31				○	○			○	
14	○			修了制作	一年間学んだ技術・知識の集大成。課題テーマに沿った調査、設計、模型の制作、プレゼンテーションまで一貫して行なう。	1通	62			○		○		○		
15	○			設計製図Ⅱ	設計製図Ⅰに引き続き、より実践的な建築製図、建築設計を学ぶ。公共性が高い施設の設計を通し都市と建築・環境と建築・町並みと建築などを考えプランニングする力を養う。	2通	217				○	○		○		
16	○			CAD実習Ⅱ	CAD実習Ⅰに引き続き、二次元CAD製図の速度・正確さなど技術的向上を目指す。より実践的な作図技術を習得する。	2通	93				○	○		○		
17	○			建築計画	建築の変遷とそれらを取りまく環境を理解する。建築の基本を自然環境、社会環境から学び建築計画の理念や方法を学ぶ。	2通	31		○			○			○	
18	○			建築設備	衛生・空調設備を中心に、設計及び計画上に必要な基礎知識について実践を通して学ぶ。	2通	31			○		○			○	

19	○		構造力学	建築物の安全性を考える上で重要な部材に生ずる力を解析する能力を養う。	2通	31		○		○		○	
20	○		一般構造	建築構造（形・力学）の初等領域について学ぶ。構造学と形態の関わりやその歴史、建物の骨組みや仕上げの構成を学ぶ。	2通	62		○		○		○	
21	○		建築施工	現場施工、内外装工事実施の結果の確認等に関し、各建築物の企画等を行ううえで必要とする専門知識を習得する。	2通	31		○		○		○	
22	○		建築法規	法規、法令・基準、規格について、その理念と運用について理解する。	2通	31		○		○		○	
23	○		3D-CAD	CGモデリング機能及びレンダリングソフトを使い、モデルを作成。CADによる三次元の立体的表現を通して空間の構成及びプレゼンテーション能力を養う。	2通	93				○	○		○
24	○		ビジュアルデザイン	プレゼンボード制作に必要な、人に伝わりやすいデザイン構成力と、それを的確に表現する為の制作技術を学習する。	2通	62				○	○	○	
25	○		インテリアデザイン	各種照明器具や建築化照明などの理解のほか、照明設計、照度計算について学び、実務で応用できる能力を身につける。	2通	62		○		○		○	
26	○		施工実務Ⅱ	施工実務Ⅰに引き続き、施工現場における専門知識をはじめ、管理、積算、見積、工事請負契約などについて学ぶ。	2通	31		○		○		○	
27	○		プレゼンテーション	インテリア計画からプレゼンテーションまでの流れを含めたトータルなモノづくりを理解し問題意識を持って実践的なインテリアプランを創り上げ演出していく。	2通	62				○	○	○	
28	○		福祉住環境学	住居の内外における物理的環境を学び、その中で暮らす人たちが肉体的にも精神的にも健全で快適に満足して住めるような住居を計画できる知識を学ぶ。	2通	62		○		○		○	
29	○		デザイン実習Ⅱ	デザイン実習Ⅰに引き続き、空間デザインに対する応用力、設計力のレベルアップを図る。	2通	62				○	○		○
30	○		色彩演習	デザイン実習Ⅰに引き続き、空間デザインに対する応用力、設計力のレベルアップを図る。	2通	62		○		○		○	
31	○		建築研究	住空間における建築計画や環境工学について、住宅設計課題を通じて追及する。	2通	62				○	○	○	
32	○		インテリア研究	住空間におけるインテリアコーディネートや家具設計について、住宅設計課題を通じて追及する。	2通	62				○	○		○
33	○		卒業制作	2年間で培った技術と知識の集大成。研究テーマ、調査、設計、作品制作、プレゼンテーションまで一貫して行なう。	2通	62		○		○		○	
合計					33 科目	2170 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：各授業科目に係る出席時数が実授業時間数の10分の9以上かつ各授業		1学年の学期区分	前/後 期
履修方法：必須科目のすべてを講義、実習及び演習を通じ2年間で受講する。		1学期の授業期間	前期13 週 後期34 週

（留意事項）

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。